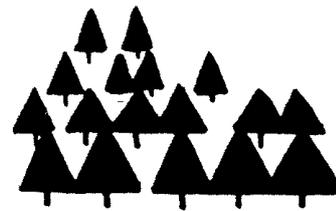


音の散歩路



～汽笛一声 本川根町「音戯の郷」へ～

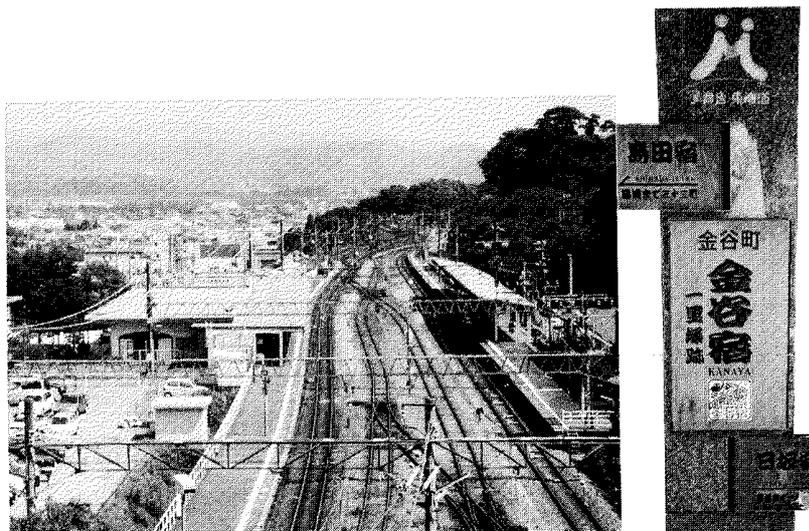


写真-1

東海道本線で静岡駅から西に向かうこと三十分、大井川の鉄橋を越えると山ふところの静かな駅・金谷に到着する。金谷宿は東海道五十三次の江戸から二十四番目の宿場であった。(写真-1) 鉄道唱歌でも「いつしか又も暗となる世界は夜かトンネルか 小夜の中山夜泣石 聞えども知らぬよその空」とうたわれているように金谷の先は日坂宿までの峠越えの難所を控えていた。そのため交通の要所として明治に至るまで大いに賑わった宿である。駅から徒歩7分位で金谷峠にさしかかるが、そこには江戸時代をしのばせる旧東海道の石畳が復元されている。(写真-2)

金谷駅から大井川鉄道に乗り換えて本川根町の千頭せんずに向かう。この路線はSL急行「かわね路」号が運行していることで有名である。(写真-3) 今回の機関車は「C56 44 三菱 昭和11年製」

である。客車は昭和10年から20年代に東海道本線で活躍したもので、乗り込んだ途端タイムスリップした様だ。(写真-4) 汽笛一声～出発である。木枠の窓から流れ込む煙とすすに懐かしい臭いをかぎながら、大井川の川面の風を道連れに上流を目指す。沿線には茶畑が次々と通り



写真-2



写真-3

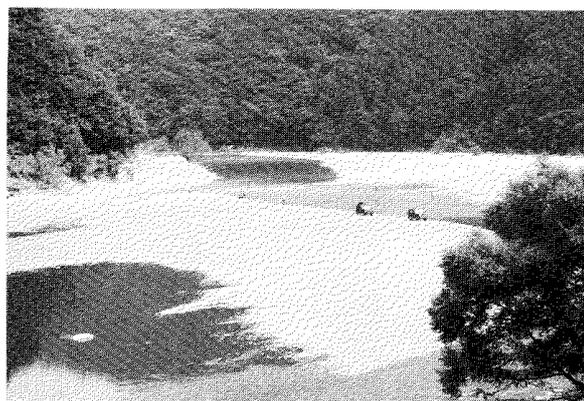


写真-5

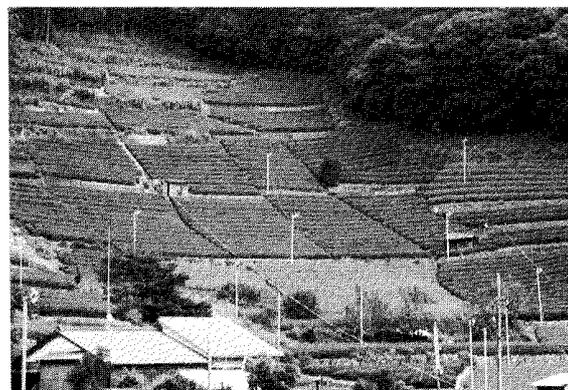


写真-6



写真-4

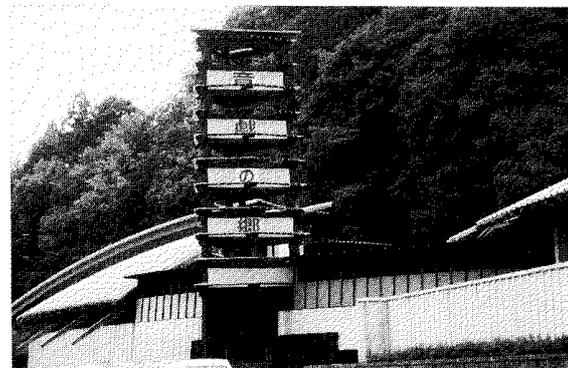


写真-7

過ぎる。(写真-5, 6)1時間と少しで終点の千頭に着く。そこはすでに南アルプスの山麓であり、残したい「日本の音風景100選」で「南アルプス山麓にこだまするSLの汽笛」が選ばれた地でもある。

駅を出るとすぐそばに「音戯の郷」がある。平成10年4月に音と戯れることをテーマにした

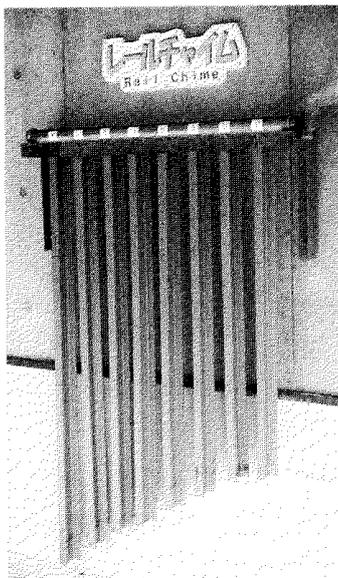


写真-8

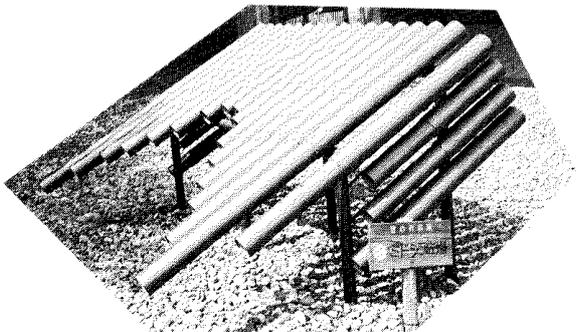


写真-9

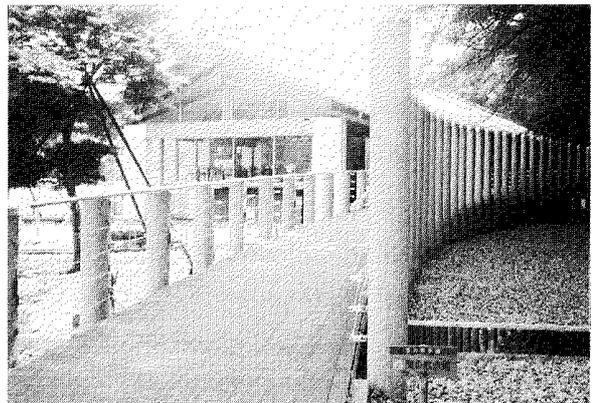


写真-10

体験ミュージアムがオープンした。一際高いのはウインドチャイム(表紙の写真)のある「風の塔」である。(写真-7)古い森林軌道のレールを使ったチャイムやパイプをたたいて響きを楽しみながら、(写真-8, 9)通路を入りに向かうと何処からともなく風鈴や琴の響きが交差しながら風のように流れてくる。(写真-10)館内には世界最大級が呼び物で音戯の郷のため



写真-11

に製作されたオルゴールがある。リーダ部で孔のあいたロールペーパーを手で回すことにより40本のパイプ(直径20cm、長さ490cm~39cm)が曲を奏でる。(写真-11)鍵盤のない自動演奏パイプオルガンといったおもむきである。そして、傘の下に立つと上から雷鳴や雨音が降り注ぐビックリドームや音声がバネを伝わりエコーのかかった会話になるバネ電話なども面白い。(写真-12)他にも玉を転がすと木琴が連続して鳴るもの、歯のドラムなどいろいろだ。(写真-13, 14)又、特にユニークなのは入場するとプラスチック製の聴診器が配られることである。聴診器をあてると胎児の音から野鳥の鳴き声、アクアサウンドまでいろいろと体験できる。(写真-15)この他、毎年開催している「音の彫刻コンクール」に入賞したアイデア溢れる作品群や、音戯工房と称して音具の製作体験のコーナーもある。

一通り体験したならば、大井川を挟んで対岸の小高い山にある「智者の丘公園」に向かう。歩いて40分程かかる。ここは音戯の郷と2本の



写真-12

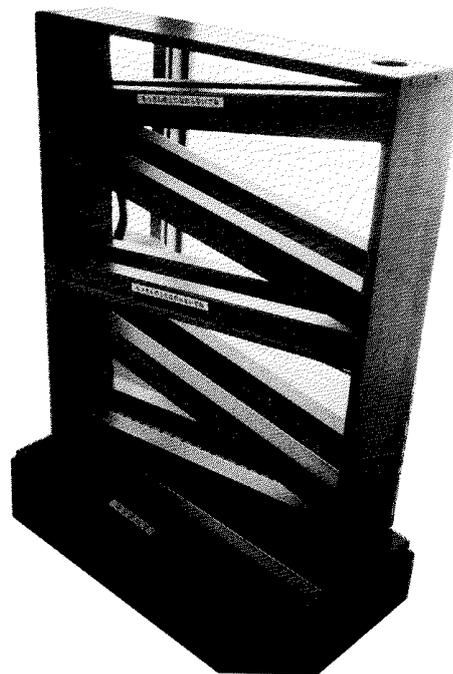


写真-13

レーザ光線で結ばれていて交信ができる。巨大な蛇口からSLの音や不思議な音を聞いたり伝声管で遊んだりしながら千頭の町を見下ろすと、小さく見える「風の塔」のチャイムや汽笛が山間にこだまして聞こえて来そうな気がする。(写真-16)

大人と子供がいっしょに楽しめる音体験の散歩路である。(財団 江沢記)

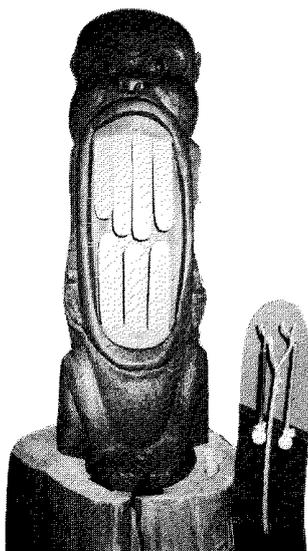


写真-14



写真-15

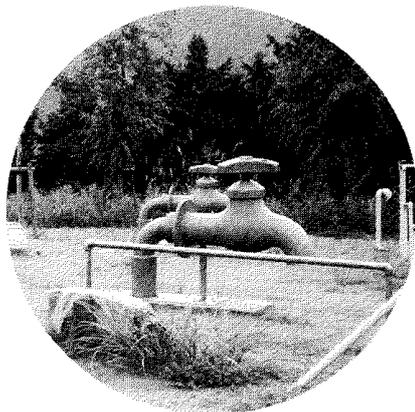


写真-16

● 「音戯の郷」 問合せ先

TEL 0547-58-2021

<http://www.fuji.ne.jp/~otogi>

休館日：火曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始

● SL 急行「かわね路」号は予約制

大井川鉄道サービスセンター

TEL 0547-45-4112